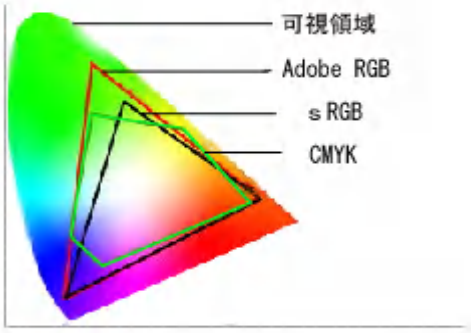
カラーマネジメント（キャリブレーション）の仕方



人間の目に見える可視領域からするとモニターで再現できるのは[Adobe RGB][sRGB]などである。プリント（印刷）で再現できるのは[CMYK]でもっと狭くなる。また、RGBは光の三原色で色を重ねると白になるが、CMYKは色の三原色で色を重ねると黒になる。RGBは透過して見るのに対して、CMYKは反射で見る。

各機器間にできるだけ同じ色空間（カラーマネジメント）で統一し、同じような色の結果を出すようにする必要がある。ただしプリンターはCMYKである。

カメラ	RAW⇒sRGB,Adobe RBG JPEG⇒sRGB	画質（JPEG)の圧縮	RAWはレタッチにおいて整える。
PCモニター	sRGB,5500,6500	Adobe RGBに対応しているのは１つだけ。かなり高額だ。	
レタッチソフト	sRGBは、自分でプリント Adobe RGBは業者プリント	業者入稿を考えるならば[Photoshop] 業者へはRAWのままかTIFFにする。色見本をつける。	自宅Pは、精度を求めTIFFへ。小さいサイズはJPEGなどへ。
プリンター	sRGB,ICCプロファイル、ICM、CMYK	Adobe RGBに対応していない。	ドライバ、ICCプロファイルを変える。
ペーパー	用紙で色味が随分違う	メーカーICCプロファイルを使う場合も。	
P業者依頼 プロラボへ	Adobe RGB	RAWorTIFFで入稿	

富士通カラーマネジメント	http://www.labs.fujitsu.com/jp/gijutsu/color/
Nikonデジタルカメラ入門	http://www.nikon.co.jp/main/jpn/feelnikon/kumon_dsc/index.htm
Canonカラーマネジメント	http://cweb.canon.jp/camera/cms/chapter1/c1_1.html
.Too カラーマネジメント	http://www.too.com/dtp/color/

撮影した時点の映像を私たちは記憶しているし、より良いイメージを持っている。それには願望も含まれているが、出したい色を再現するためにまずこのカラーマネジメントを理解しておく必要がある。これを知っていると、撮影時点での露出やホワイトバランスなどの誤差が少なくてすみ、レタッチソフトによる補正も少なくてすむ。それは写真データを粗らくしないというディテールの再現でもある。

大判プリントを意識した場合、RAWで撮影し、原版からコピーを取り、それをレタッチし、TIFFなどに変換する。また、２Lなどにプリントアウトし、色見本をつける。データの入稿方法については、ラボのHPを見て対応する。

2006.01 資料：畠山　高